

平成 28 年 2 月 12 日

機関リポジトリ推進委員会 課題領域「オープンアクセス方針」

平成 27 年度活動報告および平成 28 年度活動計画（案）

I. 平成 27 年度活動報告

1. 領域全体

1. 1 班構成と構成員

(1) オープンサイエンス班

- ・三隅健一（北海道大学）、三角太郎（千葉大学）、天野絵里子（京都大学）、大園隼彦（岡山大学）、川村拓郎（広島大学）、西菌由依（鹿児島大学）、南山泰之（極地研）、山地一禎（国立情報学研究所）、高橋菜奈子（国立情報学研究所）

(2) 学会動向把握・対応（含、SCPJ）班

- ・真中孝行（筑波大学）、船山桂子（筑波大学）、中原由美子（千葉大学）、松本侑子（広島大学）、宮原柔太郎（日本体育大学）、野中麻有（第一薬科大学）、阿曾礼次郎（北星大学）、細川聖二（国立情報学研究所）

(3) オープンアクセス方針対象論文トラッキング班

- ・三隅健一（北海道大学）、林豊（九州大学）、山地一禎（国立情報学研究所）、片岡真（国立情報学研究所）

【顧問委員】

尾城孝一（東京大学）

1. 2 活動目的

- ・機関リポジトリをプラットフォームとしたオープンサイエンスの推進を図り、各図書館における取組みを多面的に支援

1. 3 会合

- ・第 1 回全体会合 平成 27 年 11 月 10 日（中間まとめ）
- ・第 2 回全体会合 平成 28 年 3 月 3 日（平成 27 年度の活動総括と平成 28 年度の活動計画の策定、予定）

2. 各班の活動

2. 1 オープンサイエンス班

(1) 活動目的

- ・機関リポジトリをオープンサイエンスのプラットフォームとして活用するための検討

(2) 会合

- ・第1回ミーティング 平成27年6月12日（キックオフ）
- ・第2回ミーティング 平成27年11月10日（中間まとめ）
- ・第3回ミーティング 平成28年3月3日（最終まとめ、予定）

### （3）活動状況

#### ①OA ポリシー策定支援ツールの開発

- ・平成27年10月7日に、ポリシー策定支援ツールの開発のために、京都大学でのヒアリング調査を実施（方針策定の経緯、方針実施のために構築している登録システムの詳細について聞き取り）
- ・ポリシーキット構成要素の素案、ポリシー雛形比較表を作成

#### ②RDM トレーニングツールの開発

- ・日本向けのトレーニングツールの開発にあたり、まず図書館員向けのツールの開発に着手
- ・海外で作成されている既存のトレーニングツールの調査と、それらの構成要素や提供形態、ライセンス等について比較分析を実施し、RDM トレーニングツール事例集を作成（平成27年10月～、随時更新中）
- ・RDM 関連の海外文献の翻訳（現在、最終チェック中）
- ・トレーニングツールの提供とあわせて、用語集の整備や関連情報の提供を予定

#### ③研究データ対応メタデータスキーマの検討

- ・研究データに対応するために、現在の junii2 に不足しているフィールドのリストを作成し、junii2 追加項目案を作成（平成27年12月）

#### ④ケーススタディによる研究データ管理ノウハウの蓄積

- ・機関リポジトリへの既存データベース登録の可能性を探るために、DNav を利用した調査を開始
- ・科研費研究成果公開促進費により公開された「データベース」（H18～H23）の整理に着手
- ・千葉大学および岡山大学にて、論文のみならず、論文に付随するデータの提供を研究者に呼びかける取り組みを開始
- ・極地研における、観測データのデータジャーナル化に伴う検討の過程で浮上した問題点の整理

## 2. 2 学会動向把握・対応（含、SCPJ）班

### （1）活動目的

- ・オープンアクセスの政策動向をフォローした上で、SCPJ のポリシー再調査の必要性について検討
- ・SCPJ の今後の維持管理体制について検討

### （2）会合

- ・第1回ミーティング 平成27年11月10日
- ・第2回ミーティング 平成28年3月3日（予定）

### (3) 活動状況

- ・1月25日に『オープンサイエンス対応状況および今後のオープンアクセス方針策定予定についての調査』依頼を2,408学協会に対して発送
- ・2月29日までを回答期間とし、集計した回答を3月に機関リポジトリ推進委員会のWebページで公開予定
- ・『機関リポジトリにおける雑誌論文の登録業務に関する調査』を、機関リポジトリを構築している国公立大学（図書館）に対して発送予定（2月初旬）
- ・年度内に集計した回答を機関リポジトリ推進委員会のWebページで公開予定

## 2. 3 オープンアクセス方針対象論文トラッキング

### (1) 活動目的

- ・国内各機関におけるオープンアクセス方針の対象となる論文等の全体像を把握し、そのオープンアクセス化の進展をモニタリングするためのツールを開発
- ・平成27年度は、プロトタイプとして科研費助成研究の成果論文のOA状況を把握するためのシステムを構築

### (2) 会合

- ・第1回ミーティング 平成27年8月7日（キックオフ）
- ・第2回ミーティング 平成27年11月10日
- ・第3回ミーティング 平成28年3月3日（予定）

### (3) 活動状況

- ・プロトタイプシステムの構築
  - ・データソースとして、KAKENとJAIRO（IRDB）を使用
  - ・平成26年度に技術WGで開発したIRDBとresearchmapの論文マッチングアルゴリズムの活用について検討
  - ・メタデータスキーマの検討（オープンサイエンス班、博士論文班と連携）
  - ・プロトタイプシステムの開発（NIIにて契約手続き中、2月18日開札、3月末納期）
- ・OpenAIREのメタデータマネジメントの調査（平成28年2月、ドイツ）（予定）
- ・Open Repositories 2016（平成28年6月）へのポスター出展（予定）

## II. 平成28年度活動計画

### 1. 活動体制の見直し

- ・平成27年度の課題領域「オープンアクセス方針」の取組みを継承し、論文OA推進班と研究データOA推進班の活動に再編する
- ・課題領域名は「オープンアクセス方針」から「オープンサイエンス推進」に変更する

## 2. 論文 OA 推進班

(方針策定支援)

- ・ OA 方針に関する動向把握と情報共有
- ・ OA 方針の雛形（モデルポリシー）の作成
- ・ OA 方針の標準スキーマを検討（Jisc、SHERPA Services、ROARMAP による Schema for Open Access policies を参考に）
- ・ 学内啓発のためのツール類の整備
- ・ 国内の研究費配分機関や学協会への働きかけ

(実施支援)

- ・ 成果論文の登録支援ツールの検討・開発
- ・ 機関リポジトリ（IR: Institutional Repository）と業績データベース（CRIS: Current Research Information System）の連携システムの検討・開発
- ・ 国内学協会の著作権データベース（SCPJ）の活用促進

(モニタリング支援)

- ・ 方針順守状況のモニタリング（トラッキング）ツールの開発

## 3. 研究データ OA 推進班

(人材育成)

- ・ RDM トレーニングツールの開発

(技術的検討)

- ・ 研究データ対応メタデータスキーマの検討

(実験的取組～ケーススタディによる知識やノウハウの蓄積)

- ・ 論文付随データの収集、組織化、発信
- ・ データジャーナル出版の試み
- ・ 機関リポジトリへの既存データベースの登録

## 4. 班構成メンバー

- ・ 未定

## 5. 具体的な活動目標・計画と成果物

- ・ 未定

## 6. 活動経費

- ・ 未定

以上